

塩谷 温(しおのや おん)先生 漢学者



- 一八七八 東京に漢学者塩谷青山の子として生まれる。号は節山。
- 一九〇二 東京帝国大学漢学科卒業
- 一九〇六 東京帝国大学助教授となり、ドイツのライプチヒ大学、ついで清国の北京および長沙にて研究
- 一九二〇 文学博士号を授与され、東京帝国大学教授(支那哲学支那文学)となる
- 一九二八 林 秀一先生支那哲学支那文学卒業
- 一九二九 宮中御講書始にて、漢書の御進講を命じられる
- 一九三一 皇子「浴湯の儀」にて、文運を祈って日本書紀を朗読
- 一九三九 定年退職、東京帝国大学名誉教授となる
- 一九五九 岡山大学吟詩部部詩を、林 秀一先生のお計らいで、吟詩部学生のために作ってくださる
- 一九六二 逝去(八十四歳)

元の「全相平話」や明の「三言二拍」を再発見するなど、支那近世の小説・戯曲の研究・紹介に多大な業績を残した。
『新字鑑』は標準的な漢語辞典として長く愛用された。